スクールソーシャルワーカーだより 79

字を書く
絵を描く
プロがいる

かくことについて

不登校から抜け出すとき

自分の好きな道で、生活できる人が居ます。

たとえば相田みつを*さん、安野光雅*さん、五味太郎さん、和田誠*さん。みなさん絵や字を書かれる方です。(*亡くなられた方)

小学生時代、お隣りのおじいちゃんに習字を教わりました。おじいちゃんのお手本を真似て書き、その日一番の作品を提出すると“赤チン”をつけた筆で、手を添えて教えてくれました。

より良いものを得るために、真似をする。もっと良くするために、修正してもらう。続けるためにはどちらも、独りでは難しい作業です。

☆

不登校の、特に女の子が、多くの時間を費やしてイラストを描いています。お互いが知り合いではないのに、よく似た絵を描きます。何年も前から、その状況が続いています。

描く事が好きなのでしょうか。

これは、わたしが知っている学びとは、違うようです。上手になりたくて描き続けている訳ではなさそうです。

子どもは不安を感じると「固まる」「逃げ出す」「反抗する」ものです。もし不登校でイラストを描く子が、何かの不安からそうしているなら、三つの反応のどれに当たるのでしょう。

★

学校にある不安は「学習」「友だち関係」「先生との関係」あるいは「自分自身」。家にいる限りそれらはなく安心出来るでしょう。一つを除いて。

それなのに描き続ける、無限に続く動画を見続ける、ゲームを続けるのは何故でしょう。この子が描き終えるには、何が必要なのでしょう。

もしかしたら、学校に行く日が来ることを先延ばしにしているのかも知れません。

もしあなたの身近にこの、自分の好きな事だけして過ごす不登校の子どもたちが居たとします。その子に、不登校になった原因以外の新しい不安や怒りを感じさせたくないと思いませんか？

この場合、不安を感じる場所である学校に行くことを連想させる事もそれです。

☆★

しかし、不安を克服するためには、自分でその不安に立ち向かう自信を持つ必要があります。そしてそれは学校に行かなければ、得られません。

名前を挙げた人たちも、好きな事だけをして生活している訳ではありません。恐らくは、自分の毎日に不安や怒りを感じ、それを超えた結果として、今があるはずです。この子にはこれからその、乗り越える時間が必要だと思うのです。

☆★☆

この問題を解決するために、学校に行く練習したらどうかと提案するのが『福祉』の考え方です。

不登校の子はその初期に、「明日から行く」と言い、その日、服を着替え、「やっぱり行きたくない」と言うことがあります。でも、間違いなく不登校の子が、学校に行く決意をしたのです。

しかし決意した後、家を出る時、学校に向かう道で、学校を見た時、学校に入る時、そのどこから不安に負けるか、誰にも分かりません。本人にも。

決意が鈍ったとしても、前進したのです。その前進を認めないから自分も、おとなも、誰もほめません。その価値があるのに。叱られたら、もっと不安になると思いませんか？